

# リレー回想



## 「20世紀から21世紀へのメッセージ」

前所 正俊（野方）

町政30周年記念事業に取り上げられた「タイムカプセル」。多くの子どもさん達が立科町に残ってもらうには「夢をつなぐこと」...そんな発想から、プロジェクトチームを組んでの事業であったように記憶しています。

保育園児から高校生、企業等の作品を詰めた玉手箱に着手した矢先、「おとなはどうする?」の声。手紙で夢をつない

でもらおうと安易に仕掛けたが、郵政法というハードルに直面し馬力がややダウン気味、立科郵便局長のお力添いを受けて信越郵政局に説明に向き、ようやく30年後に配達してもらえる郵便物として認められた。

中に入れる物は、真空パックしたほうが良いとの情報は得たものの、機械が町内にはない、旧武石村の漬物屋さんでお願いした。ちよと野沢菜漬けの真っ最中で、土曜の午後だけという条件で、多忙の中を差し繰っていた。真空にしてもらった。カプセルがつぶれないか?の心配には砂で対応、中に水滴が溜まれば価値はゼロだ!の対策には乾燥剤を入れた。

約束どおり30年後の平成27年に開扉さ

## クラブ訪問

### 立科民謡クラブ

田中 嘉一（西塩沢）

こんにちは、立科民謡クラブです。

私たちの会は公民館事業の民謡を唄おうとの募集で始まりました。当初から15人前後の生徒が活動しています。練習も三味線・尺八・太鼓と生演奏で行い、人ずつ持ち唄を決め、楽しく練習してい

ます。デイサービスセンターや各施設、依頼のある地区などに慰問し、皆さんと一緒に唄って楽しんで頂いております。

ボランティアの他、会での新年会やお茶会、3月の芸能発表会、敬老会、年度の東北信地区の皆さんが集まる「おさらい会」なども行っております。

民謡は日本各地の風土や歴史から生み出され、日本人の姿と心、生活を表現してきた民族音楽だと思えます。

今は生活様式や考え方も大分変わってきていますが、いつまでも歌い継がれ、後世に残していくよう頑張っております。

れた。水滴難や圧力難も無く、みごとに当時のままの形で掘り出された。「30年は永いナ〜」。もう30年過ぎたの...。そんな玉手箱事業だった。



また、北から南まで、沢山の歌を唄いながら旅している気持ちにもなります。

参加してみ

たいなと思われる方、公民館にご連絡ください。



### 編集後記

最近うちの猫が家で寝食をするようになった。生まれてから14年間、外で生活していたのにいつかどうしたのだろうか。ごはんが欲しくて窓や扉の前にいることがよくあり、開けて「お入り」とつながりしてもちよと覗いてみるだけで決して中に入ろうとはしなかった。

しかしこの冬、いつものように外で夜のエサをあげたのだが、お腹が満たされなかったのか窓の外にすわって「ニャー」と鳴いていた。ごはんを用意し窓を開けると少し中を窺い最小限に家に入り食事をし、落ち着かないのかすぐに外に出てしまった。こんな日が続け徐々に家に慣れたのか、夜の食事を終えても帰らず暖房の前でくつろぐようになり、今ではお腹いっぱいになれば押し入れに真っ直ぐ向かい、朝まで布団の上でまるくなっている。今までの生活からの変化に驚いた。

いつ頃からだったか、いつも食べていたカリカリのご飯を食べにくそうにしていたのでパウチに入った軟らかいものになった。そういえば目の周りもなんとなく窪んできた気がする。抱っこをすると強く嫌がるのは相変わらずだが、歳を重ね変わっているのだ。

猫の14歳といえばそろそろ寿命に近い年齢だ。でも、硬いものは駄目だが食欲は衰えないし、この齡で家での新生活を始めるのだからきつと脳も大丈夫だ。長生きしそうだ。

A・Y